

---

# さあ革命を起こそうか

咲

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

さあ革命を起こそうか

### 【著者名】

ZZマーク

N7697A

### 【あらすじ】

響け言靈。あなたの心に。精一杯の私の力を使って神を必ず探し出す。これは神列者の少女と革命を起こす少年との戦い

## プロローグ（前書き）

「——いつの初めて書きましたあーー！」

まだプロローグなのでつまんないトカ言わないでねーー！笑

## プロローグ

「言靈」

それは人の心に響くもの

その昔、人間は言葉で物を動かしていた。

だがその言靈を悪用するものが多く、

言靈は封印されたという

しかしました」という

「神」

を求めての戦いがはじまる。

## いち (前書き)

何回か同じ様な文法を…

楽しんで頂ければ嬉しいです… ( p , \* q )

い  
ち

『…  
曉』  
あかつき

『なあにっ・お祖父ちゃんっ・』

『いいが。今から教える事を誰にも聞こつけないからねー。』

小指を差し出す。

『ひさしひー・お祖父ちゃんとなり約束するよー。』

小指こ小指としづくひやな指が絡む。

『はははー・お母さんとの約束は守りなさいがか?..』

『だつてお母さん嫌いだもーん』

可哀相に…笑

『…本題に入るが』

初めてみた笑つてこない祖父の顔。

『うん…』

『「この言靈とこのせつのがある』

『知つてゐる前に教えてくれたやつだよね！？』

『「やじ。よく覚えていたなあ…えらこでー。」』

『へへへ』

ペロリと舌を出す。

『でもな…』

『悪い奴らが使つかなくなつたんだよね！？』

『や、そりや…』

暁…お祖父ちゃん…セリフがなくなつちゃう…

『だが今…また言靈が復活して来ている…』

『えー…す、お、い、暁も使いたい…』

『暁。お前も使えるんだ……』

『うそお！？ 晓使えるの？！？ 使いたい！？ 使いたい！』

『それはダメじや』

『えー なんでえ！？』

『お前の言靈は強力なものじゃ……だから決して使つてはならない。』

『ずっと？ずっと使っちゃいけないの？』

『それはな

『それは？』

۹

『お祖父ちゃん？』

10

『寝たかったの?』

なんど呼びかけても起きない。

寝たわけではない。

そんなの7歳の晩にだって分かった。

泣きながら母を呼んだ時すでに息を引き取っていた。

暁の祖父。

『此  
神倉  
棚  
』

死去

『ひつく…ひつ…お祖父ちゃん…』

『暁…』

『ひつ…く…お幽さん』

『暁…泣かないの…』

『だつて…ひつ』

『お祖父ちゃんから』

封筒が手渡される。

『落ち着いたら一階に降つてひつしゃこ』

『いつ…』

母は今は泣いてはいなかつたが目が赤くはれていた。

封筒には

『暁へ』

の2文字。

封を開ける。

難しい漢字ばかりだが一文字一文字ふりがながふつてある。

『  
』

それは人の心に響くもの

使い方はそれ相応の言葉を述べるだけ

お前は今から光組の頂上に立つものだ。

己の強さと言霊を使い

必ずや月組より先に

神を探し出せ

何か分からぬ事がある場合<sup>は</sup>わしの娘。

つまりお前の母。

此<sup>カ</sup>村<sup>ムラ</sup> 風爽<sup>かそう</sup>

にでも聞きなれ。

この世界をお前の靈<sup>ニン</sup>で守られ

わしが死んだ今

もつお前にしかできないんじや。

ドンドンガツシャーンーー

『なあにー?騒がしい!』

『お、おぬれさん…』

『…なに?』

『言靈について教えて…月組つてなに?光組つてなに?わかんないよ…?』

『落ち着きなさい』

『つーーでもー』

『風は大気と結ばれる。水を騒がせ、火を燃やす。今…私の前に跪き私の命令に従え…!』

ヒュン

耳元を何かが通り過ぎて行つた。

『な、なに今の?』

ガシャン

花瓶が落ちた。

『…』

『…お母さんがやつたの?』

『今のが言靈の力よ。』

ゆっくりと歩いて椅子に座った。

ふーと長い溜め息をついた。

『話すわ… じつちこじらつしゃい』

『うん…』

お母さんの真っ正面に私は座った。

『言靈は名前の力なの』

『…名前?』

『私の名前には”風”という文字が入ってるでしょ?』

これがさつきのような力の源になつていいの。

火という文字があれば火が使えるし。

水が入つていれば水。というわけ…。』

『……じゃ神つてなに?』

『神とは全ての力が使える者。』

つまりこの世界で一番の言靈の使い手の事』

『月組と光組つて……?』

『月は……神を無理やり手に入れ……』

この世を思つままにしようとしている組の事

それに反し、月よりも早く神をみつけだし守るのが光

他に質問は?』

『……私が光の頂上ってなんですか？』

『それは……

あなたの使える三靈が……

あつたらしい朝が来た

7：30

軽快な携帯のアラームの音楽がなり響く。

「懐しいな……」

久々にお祖父ちゃんの夢を見た私は仏壇の前へと向かった。

「お祖父ちゃん……」

手を合せて目を閉じる。

「まだ神は見つけられていません……」

此桺 晓

17歳。

あれから10年の時がたつた

神倉が亡くなつた後も月組の大きな動きは見られていなかつた。

しかし」の日から暁の運命と月組の一人の少年との戦いが始まる。

でもそんな戦いが始まるなんて誰も気付いていなかつた……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7697a/>

---

さあ革命を起こそうか

2010年10月28日06時24分発行